

〈解答〉

- ① 1 薄くなり
2 イ
3 十
4 (最初) 考える意識 (最後) 在している (完答)

配点 ① 1、3は各2点、他は各3点 10点満点

〈解説〉

- ①
- 傍線部①の後は「だんだん／自分の／リアルな／からだの／感覚が／薄くなり／バランスを／欠いて／いきます」と文節に分けられる。ここで「感覚が／だんだん／薄くなり」としても意味は変わらないので、「だんだん」は「薄くなり」を修飾していることが分かる。
 - 本文の第一段落に、「私が最近心配しているのは、インターネットやゲームに没頭しすぎる若い人が増えていることです」とあり、「インターネットやゲームに没頭しすぎる若い人が増えていること」を心配する理由として、インターネットやゲームは、実際に「からだ」を使っているわけではなく、情報のみでかわっているため、だんだん自分のリアルな「からだ」の感覚が薄くなり、バランスを欠いていくことを、筆者は挙げている。これをまとめたものが、「自分の『からだ』を現実的な感覚でとらえることができなくなる」とある選択肢イである。
 - 文節は「身体の／観点から／考えた／人が／います」と分けられる。さらに単語に分けると「身体・の／観点・から／考え・た／人・が／い・ます」となる。
 - 傍線部④の直後の段落に注目する。その段落の一文目から三文目に、デカルトが、「我思うゆえに我あり」という言葉を生み出すまでの思考の過程が述べられており、最後の一文に、このような思考の過程を経て、「考える意識があるからこそ、自分は存在している」という考えにデカルトが行きつき、「我思うゆえに我あり」という言葉が生み出されたという結果が述べられている。